



Title	和歌五首
Author(s)	音代, 節雄
Citation	懐徳. 1940, 18, p. 55-55
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/89053
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

庭前種竹一句過。早已亭亭雅趣。多夏雨送涼風拂拂。紗窓招月影婆娑。

契沖が住みたりし和泉なる伏屋氏舊邸を訪ねて

音代節雄

水清く陽の暖き和泉なるこの里にして君は學びし

秋の日のしみらにぬくし柿の實のたわゝにみのる伏屋の屋敷

庵のあと示すと主柿の實の下照る小徑數かげに行く

池田川涼々として切崖の裾廻をめぐり秋の日ぬくし

切崖の藪下とよみ行く水を君聞きたりし庵の址かな

母

昭和十五年六月十八日發病

食後の藥服^のまして横になる今^の暑さは母にこたへむ

蒲團より伸して足よ冷たくてさすりくれよと云はぬ母かも

同じ月二十八日午後五時二十分逝く

リウマチの腫れも引きたる母の手を組ましめて從弟は有難がるもの

詞藻

仲田應弘